

## 〔内科〕

### 1．研修内容

- (1) 内科では消化器系、呼吸器系、循環器系（高血圧・脳梗塞・腎疾患・心臓外科等含む）を中心にそれぞれ2ヶ月ずつ計6ヶ月の期間、内科学の研修を行う。主な目的は、一般的によく遭遇する病気の診断方法と治療に必要な知識・技能を習得するとともに患者のケアに必要な態度と責任感を養成することである。
- (2) 指導医の下で病棟主治医として患者を受け持ち、病歴聴取、系統的な身体診察、基本的な臨床検査や治療法等を習得し、患者を全人的に診ることができ幅広い基礎的な臨床能力（知識、技能、態度および臨床問題解決法）を身につける。さらに内科系救急患者の初期診療および初診患者の病歴聴取・診察を中心とした外来診療にも参加する。

### 2．一般目標

臨床医学の基本とも言える内科学の研修を通じて、幅広い基礎的な臨床能力（知識、技能、態度および臨床問題解決法）の習得と医師として当然必要な姿勢・人間性の向上を目指す。

### 3．行動目標

#### (1) 基本的姿勢・人間性

医師として必要な基本的姿勢と人間性を向上させるために

- 1) 患者の問題点を身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。
- 3) 指導医のもとでインフォームドコンセントを実践できる。
- 4) 診療チームの一員として行動できる。
- 5) 安全管理（医療事故防止、事故後の対処、院内感染対策など）を理解し、指導医のもとで実践することができる。
- 6) 生涯にわたり学習・自己研鑽を怠らない姿勢を身につける。

#### (2) 行動目標

病歴・身体所見と基本的な検査から病態を考え、鑑別診断を行い適切な初期対応ができるために

- 1) 適切な病歴聴取ができる。  
病歴を聴取し、診療録に記載できる。

救急時や意識障害患者に対しては、家族・関係者から情報を聴取することができる。

- 2) 全身を系統的に診察し、その所見を POS (Problem Oriented System) に従って診療録にわかりやすく記載し管理できる。
- 3) 救急症例に対しては  
速やかにバイタルサインを評価できる。  
意識障害の程度を評価できる。
- 4) 基本的な検査を指示・実施でき、結果を解釈できる。  
日常診療でルチーンに行われる血液検査、尿検査、便検査を指示し結果を解釈できる。  
代表的疾患や各臓器における基本検査を指示し結果を解釈できる。  
例) 肝・腎機能検査、糖負荷試験、髄液検査、輸血に関連する検査など  
緊急尿・血液検査を指示し、結果を解釈できる。  
X線障害に注意し胸・腹部単純写真・CT・MRI (頭部・胸部・腹部) を指示し、主な胸・腹部単純写真、CT・MRI の病的所見(疑い)を指摘できる。  
心電図を自ら施行し、緊急性のある所見を指摘できる。  
腹部・心臓超音波検査を指示し所見を指摘できる。  
消化管X線・消化管内視鏡の検査を指示し所見を指摘できる。  
初診時検査または入院時検査の結果に基づいて鑑別診断の検査の計画を立案できる。  
専門的な検査(気管支鏡、心臓カテーテル検査、臓器生検など)の適応を述べることができる。

#### 4. 研修目標

- (1) 経験した方がよい主要疾患  
東部地域病院研修内容チェック表参照  
( 経験すべき症状・病態・疾患      経験が求められる疾患・病態 )
- (2) 研修すべき主な診断・検査法  
東部地域病院研修内容チェック表参照  
( 7. 臨床検査 )
- (3) 研修すべき手技・治療法  
東部地域病院研修内容チェック表参照  
( 8. 基本的手技、9. 基本的治療法、13. 救急医療 )

#### 5. 研修実績

- (1) 入院患者数：月 10 例程度。サマリー作成。

- ( 2 ) 救急外来患者数：月 30 例以上。
- ( 3 ) 他科転科患者数：消化器系は 2 例以上、循環器系は 1 ~ 3 例、呼吸器系は当院に呼吸器外科が無いいため他院外科へ 1 ~ 2 例。
- ( 4 ) 手術適応患者数：消化器系は 2 例以上、循環器科は 1 ~ 3 例。
- ( 5 ) 剖検例：各系 1 例以上。CPC で提示できることが望ましい。
- ( 6 ) 院外（研究会・地方会・学会）での自己経験例の症例報告発表 1 例以上および論文作成が望ましい。